

地域と共生するFFG

屋台村 プロジェクト



ちゅうおうけいそう
株式会社 中央計装

おか だ けん じ
代表取締役 岡田 健二 氏

取引店：福岡銀行 北九州営業部



玄海旅館にて、岡田社長

世界遺産の玄関口に賑わいを取り戻す 漁港宿場町の復興プロジェクト

福岡県宗像市神湊。「神宿る島」として

知られる世界遺産『宗像・沖ノ島と関連遺産群』の玄関口となる地域であり、かつては宗像郡玄海町の中心として10軒ほどの旅館が軒を連ね、毎週日曜日には漁港の朝市に人が群がり、夕方には浴衣姿の観光客が集まって栄えた漁港宿場町でした。

その神湊で2020年、絶好のロケーションを活かしたカフェ「岡八」を開業し、老舗旅館「玄海旅館」の経営も引き継いだのが、北九州市小倉北区長浜町に本社を置く電気工事会社株式会社中央計装の岡田健二社長。地元住民との交流から、神湊に当時の賑わいを呼び戻すための「屋台村プロジェクト」を立ち上げ、スタートさせました。

神湊で活性化を目指す岡田社長に地域復興についての想いを伺いました。

海に面したカフェを開く

まずは地域雇用に貢献

そもそも、なぜ地元住民でない私が、神湊で地域復興に関わっているのかといいますと、自社の社員の福利厚生、取引先との接待、仕事仲間との交流、人材募集のPRを目的にカフェ岡八を、ここ神湊に開業したことがきっかけになりました。

子どもの頃から釣りをするために神湊へはよく来ていましたから、ある程度の土地勘はありました。磯遊びや魚釣りができる自然に恵まれていて、経営する中央計装の本社がある北九州市と福岡営業所のある福岡市との中間点であったのが、この土地を選んだ決め手です。カフェとはいえ、プールやビリ

ヤード場を併設し、プロジェクターを使って会議ができるスペースを設けたのも、そういった理由からで、ワーケーションに利用できる宿泊施設の機能も持たせています。

建物は廃業した旅館を買い取って改装したもので、多くの仕事仲間を声を掛けて、ほとんど自分たちの手によるものです。開業後の運営スタッフは通常日で3名。提供するメニューは軽食、BBQ、ドリンク等と、セルフサービススタイルを採用しています。雇用した



カフェ岡八のエントランス



カフェ岡八を切り盛りする責任者 添田さん

正社員3名はすべて地元の若者で、そのうち2名は漁師一家の生まれ。私は飲食の知識が無い為、完全に運営を任されている責任感と、地元を誇りを持っていることもあり、私の期待をはるかに超えて店の発展に尽力してくれています。

カフェのコンセプトは「休日自然で遊ぶ」。港の中心部から少し奥まった場所にあるにもかかわらず、コロナ禍でちょうどよい

遊び場を求めている人たちのニーズに合致したのか、昨年3月にオープンして以来、昨年の来場者数は1万5千人を超え、今年は4万人を見込める勢いとなっています。

歴史ある旅館の灯を 消さないために

カフェをきっかけにして、地元の人たちとの縁が徐々にできていく中で、開業六十余年の「玄海旅館」を守っていた三代目女将から「この旅館を引き継がないか」と、話を頂きました。

宗像市全体では、世界遺産の宗像大社、全国屈指の来場者数を誇る「道の駅むなかた」、フェリー利用者が年間20万人を超える筑前大島といった大きな集客力のある観光スポットがあるものの、その他の場所は、ほとんどがただの通過点になっているのが現状です。

また、神湊の漁港はイカの水揚げ港として知られ、津屋崎千軒^{せんけん}かきも有名ですが、名産品としていち早くブランディングに成功した

呼子のイカ、糸島のカキ小屋に先手を取られ差をつけられてしまった感があります。そして、集客面で勢いを失った当地区の大型旅館は徐々に姿を消していった結果、ついに、玄界灘に臨み100名以上の宴会客を収容できる旅館は、こー軒だけになっていました。事業再構築補助金の活用と福岡銀行の協力を受け、経営の引き継ぎを決意し、全従業員の雇用を守ることにしたのです。



玄海旅館を切り盛りする責任者 入江さん



1.カフェ岡八の目の前では磯遊びも楽しめる／2.カフェ岡八の施設内には会議スペースなども併設している／3.玄海旅館でいただける豪華なランチの一例／4.全室オーシャンビューの玄海旅館の居室／5.100名以上を収容できる玄海旅館の宴会場

海の恵みと人的資源が財産 土地の強みを活かす取り組みへ

このような経緯で引き受けた旅館経営ではありますが、なにぶん資金力の乏しい一旅館の取り組みだけでは、宗像神湊という地に全国から来客者を集めるレベルに、発信力、集客力を高めようにも限りがあります。

そこで、私が考え抜いて導き出した結論が「一人でできないなら、周りに協力してもらえばいい」ということ。神湊には、全国から釣り人が集まって遊漁船の予約が3か月先まで埋まっている名物船長がいます。美味しい魚やイカを獲る名人と知られる漁師がいます。カフェ岡八のスタッフのように、地元生まれ育って海に詳しく、釣りや磯遊びを教えられる人もたくさんいます。また、旅館の目の前は、地元漁協が稚魚を放流するためアワビやサザエの豊かな漁場となっており、環境的な魅力もあります。

地域の人たちが力を合わせ、各々の能力を活かして人を呼び込み、神湊を盛り上げればいい。そんな想いから生まれたのが、

老舗旅館と地元漁師がタッグを組んで地域復興を目指す「屋台村プロジェクト」の構想です。

まず、地元の漁師たちに話したところ、「遊漁船は魚を釣らせるだけじゃなく、下船後も魚を捌くなどしてお客さんを持て成したい」「全国でも指折りの好漁場で昔は漁港宿場町として賑わっていたのに。昔の賑わいを取り戻すためなら協力する」と、漁協をあげての協力を申し出てくれました。

さらに、地域の歴史ある料理店、地元の名産品を扱う商店、道の駅、宗像市の関係各部署の方々からも同じく、「昔の華やかさを取り戻すためなら協力する」と言って頂きました。

楽しい体験を売って 集客力を高める戦略

屋台村プロジェクトにおける最大の特徴は、地元の漁師たちが出店して、自慢の海産物を振舞いあう点です。海産物はそのまま売るだけでなく、イカを天ぷらにしたり

アナゴを白焼きにしたりと、調理して提供するメニューも用意します。獲れたてのおいしさを競い合つて、地元の出店者全員で盛り上げる仕組みの屋台村の名前を旧玄海町である事より、「玄海横丁」と名付けました。

場所は玄海旅館横で、フェリー乗り場に向かう道沿いにあります。砂浜に面しているので屋台村には海側にデッキを設け、子どもたちを遊ばせながら食事を楽しめ、ゆつたりと過ごせる場を提供します。夏には盆踊りも予定しており、地元住民も一緒に賑わう光景を夢見ています。



海からの風景（正面・玄海旅館／右奥隣・屋台村建設地）

屋台村の事業計画でとくに意識しているのが、「モノ」から「コト」へと変わった人々の消費志向です。屋台村から一望できる海そのものが、遠方からの来場者には特別な景観であり、思い出深い体験になるはず。その海を彩るように大漁旗を並べる演出により、更に気分が盛り上がる事でしよう。また、例年10月の宗像大社秋季大祭に併せて行われる、神湊の海上神幸行事、えんや〜でお馴染み「みあれ祭」の当日には、屋台村は海上の祭を観賞できる特等席となります。



みあれ祭



宗像市内周遊を予定しているトゥクトゥクに乗って
(左から岡田社長、福岡銀行執行役員山中北九州営業部長、瀧口副部長)

 株式会社 中央計装

代表取締役
岡田 健二

本社:北九州市小倉北区長浜町6-10
TEL 093-522-0787
営業所:福岡・東京・大阪

海カフェ  **岡 八**
海の幸の店 **玄海旅館**
漁師屋台村 **玄海横丁**
MAIL okadakenji@outlook.jp



OKADACHIA

もちろん、魚釣り、磯遊び、マリンスポーツ、BBQなども、屋台村を訪れた人が体験できるよう準備を進めています。

当面は、漁師が既存事業での収益を損なわずに済むよう、日曜日だけの出店を計画し、日曜日以外は、玄海旅館で従来提供している海鮮食を中心に販売する予定です。玄海旅館の食事を楽しみに来訪される

リピーターが多いため、これを機により多くの人たちに老舗旅館の味を気軽に楽しんでもらえたらと考えています。

神湊復興の起爆剤を目指す

屋台村構想で当地に呼び込みたいのは、20〜50代を中心とした子育て世代。集客

効果が地域に波及することで、地域全体での既存事業の向上と新規雇用の促進につながるものと捉えています。

まずは、地域復興の起爆剤としての成功を目指し、今年の11月には屋台村開業とともに復興を祈念した花火を500発打ち上げます。